

# 教職員養成・育成だより 第55号

令和3年10月14日発行  
横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

## 令和3年度 よこはま教師塾「アイ・カレッジ」開講

令和3年度のよこはま教師塾「アイ・カレッジ」が9月5日に開講しました。横浜の教師を目指す大学3年生を中心に、77名の塾生が学び始めました。今期のアイ・カレッジでは、前半3回をベーシック講座として位置付け、次のような姿を目指してきました。

教職への思い・情熱をもつとともに、児童生徒に教育的愛情をもって接することの大切さを理解している姿 **<高める「愛」>**

横浜の教師を目指す塾生として、自分の強みや課題を捉え、資質・能力を高めようとしている姿 **<鍛える「EYE」>**

仲間や指導教官等とコミュニケーションをとり、自らの目標に向かって切磋琢磨しながら、学び続けようとしている姿 **<磨く「I」>**



新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、全ての講座をオンライン上で実施しましたが、塾生は、同じ夢や目標を志す仲間と積極的にコミュニケーションを図っていました。「開講にあたって（「アイ・カレッジ」塾長 小椋教育次長による講話）」、「授業づくりの基礎」「横浜の人権教育」「危機管理を学ぼう」の講義・演習では、新たに吸収した知識と大学での学びや学校でのボランティア体験等をつなげながら、学びを深めました。塾生の声を一部紹介します。

○自分の体験や考えには限界があるため、同じ目標をもつ他の塾生の話や意見を聞くことで視野が大きく広がったように感じています。また、相手に意見を述べるときに、よい面ばかりではなく、改善点を述べるのが今まで非常に少なかったのが、アイ・カレッジの活動を通して、自分の中の意識が変わったように感じます。

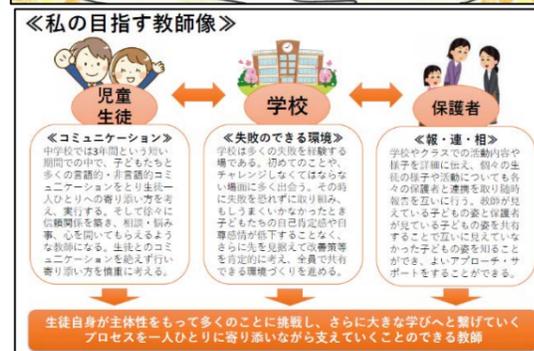
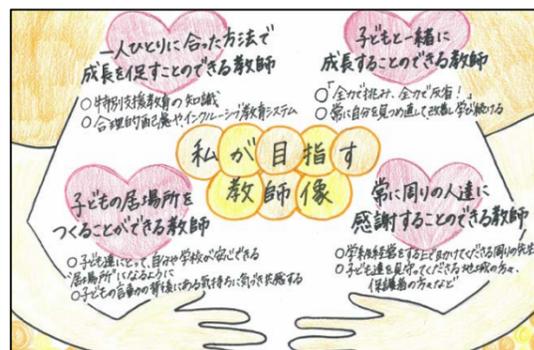
○これまでは何となく教師になるための方法や学び方について、誰かに教えてもらえると考えていましたが、自分で学び考え、行動に移すことが必要なのだと考えが変わりました。また、学校でのボランティアも楽しく活動して終わっていましたが、子どもとの接し方や支援の手立て、子ども向けの自分の言動など一つひとつが、自分が教師になるための学びにつながるのだと気付きました。

○人と学ぶことが減っている中で、自分と同じ横浜の教員を目指す人たちと学ぶ機会を得られたことは、貴重な体験になりました。講座で学んだことを生かして、横浜の児童生徒の成長を支えることができる教員になれるよう、更に学び続けていきたいです。

○本気で教師を目指す人たちと、教育現場で起こる問題について、対話的に学び合い、切磋琢磨することができました。今後もしっかり取り組みたいです。

○塾長の講話では、「横浜の教師を目指す」ということについて、より強く意識するきっかけになりました。「横浜の人権教育」では、「気付かない自分に気付く」ことの難しさと大切さを実感しました。

「自分がどのような教師を目指したいか」について、塾生全員がポスター（発表シート）を作成し、プレゼンテーションを行った際には、自分の夢や目標を真剣に語る姿が見られました。互いのプレゼンについて討議を行ったことも塾生には大いに刺激になりました。塾生が作成したポスターの一部と、講座の振り返りを紹介します。



### 講座を振り返って

○プレゼンと討議を通して、班のメンバーの目指す教師像に、自分自身も大変よい刺激を受けました。また、発表を通じて、自分のよさや個性についても見つめ直すことができました。

○自分の中であいまいだった「目指す教師像」が、他者に伝えるという活動を通して、明確になったことが最もよかったです。明確になったことで自分に足りないところや目標に近づくために何をしたらよいかを考えるようになりました。

10月31日から3月までは全7回のスタンダード講座を実施します。教師体験プログラム(KTP)も開始し、児童生徒や教職員と関わることを通して、「教師を目指す」ことについて、より多面的に学びを深めていきます。塾生の受入れにつきまして御協力いただける学校がありましたら、ぜひ「よこはま教育実践ボランティア」の登録をお願いいたします。

### よこはま教育実践ボランティア D期の活動募集が始まりました

D期(11月下旬～)の活動を募集する学校の申請が始まりました。教員を目指す学生にとっては、教員としての実践力を身に付ける場であり、横浜の学校の魅力を感じ取っていただく機会となります。「アイ・カレッジ」塾生の「教師体験プログラム(KTP)」の受入れにつきましても、本ボランティアの活動登録校に依頼させていただきますので、ぜひ、各学校の実態や行事等に応じた多様なフィールドの御提供ください。

